

「ベルリンの旧賃貸兵舎の中庭における空間利用—中心 3 地区を事例として—」

システム情報工学研究科 社会工学専攻  
博士前期課程 2 年 和田 桃乃 (201720527)

## 1. 渡航先

ドイツ・ベルリン

## 2. 渡航期間

2018 年 8 月 31 日～9 月 25 日 (計 26 日間)

## 3. プロジェクトの背景

本プロジェクトは、筆者の修士論文「ベルリンの旧賃貸兵舎の中庭における空間利用」の執筆に伴う現地調査としての位置づけを成している。当該研究は、同市内にある賃貸兵舎を背景とした中庭を研究対象として、第二次世界大戦、東西冷戦からの復興という文脈からみた現代の中庭における空間利用の実態を、文献、現地踏査、有識者へのヒアリングなどから明らかにするという内容である。筆者は、社会・国際学群 国際総合学類在籍中の 2016 年 3 月～2017 年 2 月の期間、ベルリン自由大学 (Freie Universität Berlin) に交換留学し当該研究の基盤となる卒業論文「ベルリンにおける住民による地区イメージ形成と更新」を執筆したほか、同市をフィールドとした研究を継続するべく、現在所属する大学院の研究科へ進学した。このような経緯のもと、本プロジェクトにおいてはベルリン市内に存在する公的な空間利用が認められる中庭から研究対象とする中庭を選定し、詳細な実測・記録を行うための現地調査および文献収集を、修士論文の執筆に先立つ 2018 年 8 月～9 月に行った。

## 4. 目的

筆者の修士論文「ベルリンの旧賃貸兵舎の中庭における空間利用」の執筆に必要な現地データ (実測・記録撮影に基づくもの)、文献資料から有用な知見を得ること、ならびに、有識者へのヒアリングから現地調査方法や論文執筆に対する指導を得ることを目的とする。

## 5. 実施内容

### 5-1. 文献調査

ベルリンの都市形成に関する展示を行う Märkisches Museum、Berlin Story Museum、賃貸兵舎建設時代の画家 Heinrich Zille の作品を展示する Heinrich Zille Museum、ならびにベルリン芸術大学 (UdK)、ベルリン自由大学、ベルリン日独センターの各図書館を訪問し、中庭空間利用の歴史と変遷に関連した資料を閲覧・入手した。

### 5-2. 現地踏査

ベルリン中心部に位置するミッテ (Mitte)、プレントラウアーベルク (Prenzlauer Berg)、クロイツベルク (Kreuzberg) の 3 地区から、既往研究や留学時代の基礎調査などから確認

できていた中庭（計 117 ヲ所）を訪問し、中庭を有する建物のファサード・中庭の面積・入口の大きさなどの実測・記録撮影、ならびに占有物の確認・記録などを行った。調査した情報は各中庭毎に調査シートとしてまとめた（図 1）。

### 5-3. ヒアリング

研究対象のひとつとしている中庭に関する著書を持つ建築家の A 氏（公開文書のため以下仮称）、ベルリンのテックシーンを専門とするライター of B 氏、ベルリン市内で複数のプロジェクトを持つ建築家の C 氏、ベルリン市内で不動産仲介を行う企業に勤める D 氏の計 4 名にヒアリングを行った。

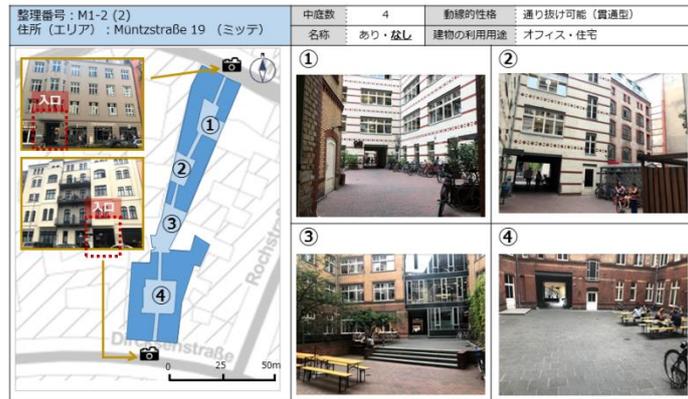


図 1: 中庭の調査シート（一例）  
〔地図〕 Mapstack Stamen より筆者作成、〔写真〕 筆者撮影

## 6. 成果

文献調査とヒアリングから、研究対象とする中庭を有する賃貸兵舎の建設・戦争被害・修復のプロセスを年代ごとに整理した地図データを得た。この結果、この地図と筆者作成の中庭地図の情報を重ねることで、現在の中庭空間利用に至るまでの歴史的な評価を加えた考察が可能となった。現地踏査の結果、訪問した 117 ヲ所のうち 50 ヲ所の中庭を当該研究における正式な対象地として判断することができた。また、中庭の連続個数と通り抜け可否の関係から、中庭の構成パターンを 6 種に類型化することができた（図 2）。

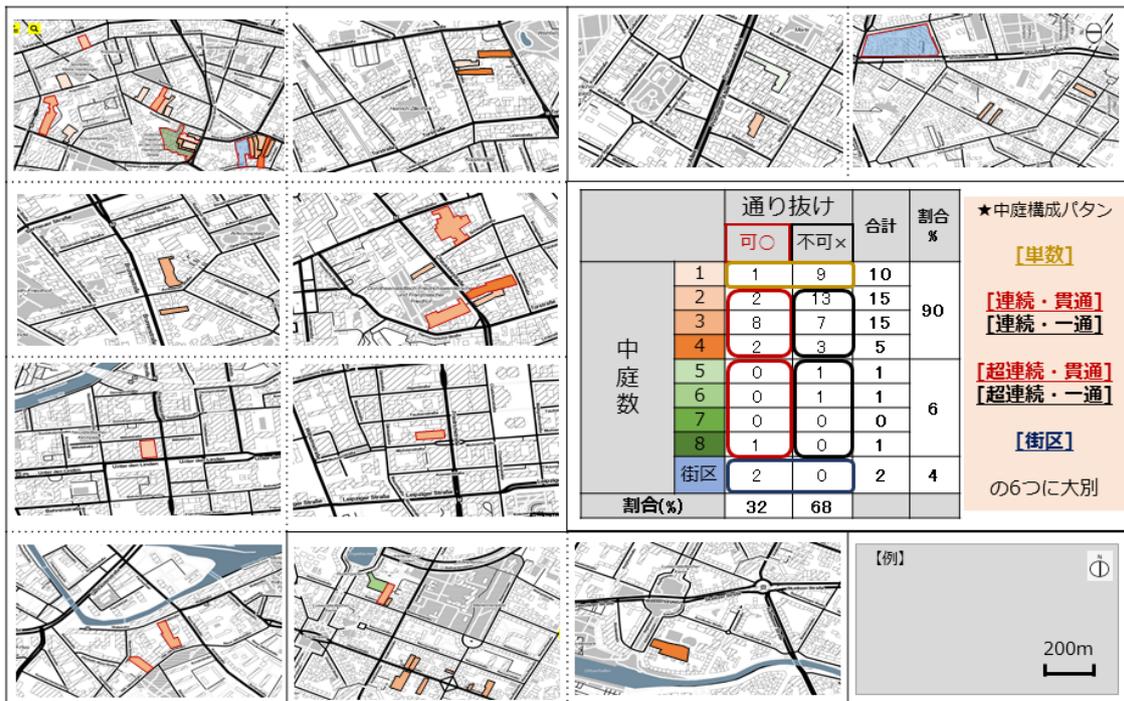


図 2: 中庭の連続個数と通り抜け可否の関係に基づいた中庭構成の類型化  
（現地踏査の情報に基づき筆者作成）